

鶴岡市総合計画審議会 第4回社会基盤専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年8月20日(月) 午後2時～4時30分
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター「にこふる」3階 大会議室
- 委員発言の概要

第1節 快適な都市環境の形成

- ・賑わいのある中心市街地の形成とあるが、何か具体的な施策があるのか
中心部で市所有の遊休地の利活用を進めている
これまで、映画館や商店街の取組、高齢者住宅の建設などがある。
ソフト事業も色々取り組んでいただいている。
中心街の歩行者、自転車通行量が上がってきていない。数字としてきていない。
街の中に人が住まないと活性化を図っていけないという観点から、これからは、都市再興基本計画や中心市街地活性化基本計画などによって様々な事業展開を図っていききたい。
- ・住民の誘導も法律上はスタートしている。何か効果があるか。
立地適正化計画により事業を進めている最中であり、具体的な効果、成果は出ていない状況。
北部で区画整理事業を進めている。市街化区域内の居住人口の増大を図っていききたい。
- ・市街化区域内で開発をされている。今まである土地を利用して、人が住める環境を作っていく必要がある。（市街地を拡大しない。）
- ・歩行者の環境、自転車の空間という意見があったが、第1節に入らないとどこに行くのか。
不動産流通の話が重要と思う。空き家、空き店舗をどうやって回していくのか。視点というか。
前の計画でいうと第3節の既存ストックの維持管理と有効活用だと思うが、今回変わって公共施設管理になってしまったので、民間ベースの遊休不動産というか、どうやって回していくのかという部分がどこに行ってしまったのか気になった。
- ・人や自転車が回遊したりすることでは、第3節があいまいだと思う。
伝統美も大切にしようという話題になっている。薬局の建物が国の登録文化財に指定され、一つの励みになっているのかなと感じている。中心市街地活性化計画でうまく使ってもらえないかなと思う。
- ・雪の厳しい地域。中心市街地を自転車で行き来するのはなかなか難しいのではないかと思う。
空き家などを集積して、マンション的なものを作って、市街地以外からの人たちを集めるような施策をしてはいかがなものかと思う。
高齢化すると除雪などがなかなか難しいと思いますので、そういうことも考えてみてはいかがか。
マンションを積極的に導入してはどうかという意見。
- ・銀座のクオレハウスは、高齢者のマンション的というか、住まいとなっているが、入居者の暮らし方は街に出て歩いたりしているのか。クオレハウスの方は、鶴岡の方でなくて、県外から来ている

方が多いと聞いているが、実際に住んで歩いているだろうか。

もう一点、歩いて楽しいとか、街づくりをいままでやってきているが、客観的に自分で感じると、鶴岡は歩いて楽しいと思う。東京などから来られた方は、駅がずっと市役所のあたりまで歩いて来たり、そういうところに沢山文化施設があったり、歴史もあるし、藤澤周平記念館を回ったりとか、歩ける範囲に、すごくいい所とか風景も素敵だし、歩いて楽しいことがけっこう出来上がっているのかなと思うときに、中心市街地が活性化しないのかということを考えていく。商店としての機能的なところに、暮らしている市民がニーズとして必要とされていないものを作っても機能しない。歩道整備とかのハードよりは、ソフト的なところを攻めていかないと、必要とされていないことをしても人が来ないと思う。

20年前は、賑わっていたと聞かすが、当時は車社会ではない時代と思うと、今車で便利になって、歩いて楽しむまちづくりとして中心市街地で歩道も整備されてできましたという時に、歩道が整備されても人が来るのかと思う。

車に慣れてしまっていると、特に鶴岡に住んでいると、車でどこか目的地に行ってその近くを歩くという形になると思う。生活の仕方が変わってきて、昔のような賑わいとか、歩いて楽しいというところの視点を変えた方がいいのではないか。ニーズに合っていないことを議論しているような気がすると思う。

- マーケティングが必ずしも今の時代に合っていないのではないか。
- 環境整備するだけでなく、これからの街の中心部は何をやって賑わっていくのか。そういう議論をしないといけないのかなという気もする。
- 中心部に病院や銀行とか、文化会館とか集約されているので、そういう所に住みたくなるような住居を作ればいい。郊外では車でないと、交通手段としてバスとかの公共交通機関が利用できませんので、行けなくなるので、中心部の周辺に、歩いたり、自転車で行ける施設があれば住みたくなるような気がする。
マンション問題。75歳以上になると免許を取り上げられる時代ですので、自家用車でなくても生活できる空間があってもいいと思う。
鶴岡でも一日車が一台か二台しか通らないようなところに住んでる人もるわけですがけれども、市にとっても除雪などでえらいコストがかかっていると思う。そういう人たちは、ある程度人の住んでるところに集約しなければならないだろうし、地域に住んでいて、自分で何でもかんでもしなければならなくなると、マンションとかはあまり手がかからないということで、住んでみると非常に住みやすいのではないかと思う。
- クオレハウスは全国的に注目されているが、住んでいる人は実際に街中を歩いているものかどうか。
マンションとか集合住宅の動向みたいなのが、今どういう傾向にあるか。
⇒ クオレハウスは平成21年8月に開館して10年近くになるが、当初から高齢者用の住宅ということで、開館当時は入居率は8割くらい、近くに買い物できる店があるから歩いて行けるという話は聞いている。運営されている方が色々なイベントをされていることで、そこに連れ出し交流などをされていた。そういう意味では外で歩いているという認識を持っていた。現在の状況や空き室

状況などは把握していない。

マンションの需要といますか、駅前などにもあるが、建てたいという業者が来ているという話は聞いている、市の遊休地を使って居住者を集めたいと考えていて、中心市街地活性化基本計画にも載せていることであり進めていきたい。民間の方でも、商店街の中に集合住宅を作るといった話が進んでいると聞いている。

- ・中心部で生活するとなると車よりも歩行者や自転車中心の環境での生活となるので、循環バスを走らせるとか。中心市街地の周りに大きな駐車スペースがあって、郊外に住んでの方が車を止めて、住んでの方と同じように、環境の中で楽しく過ごせるような環境。
車で生活していて、目についた所で止まろうとしても、観光施設だったり、素敵な建物だったり、車を止めるところが無くて素通りしたり、あっても少ししか止められない事が多分にある。
近くに大きな駐車場があって、そこから歩いていける環境が作って如果能ら、より楽しいかなと思う。

第2節

- ・公共交通ネットワークの形成という点では、市内は道路が狭いという点と冬場の除雪が大変で交通ネットワークという点ではなかなか難しい。
バス路線は、ここ何十年変わっていない。人が住んでるところを通っている。本来であれば、人口動態に合わせて路線の見直しをしなければならないが、なかなかできない現状がある。
市内循環バスは、大赤字でなかなか広げられない。走らせた場合の赤字を誰が負担するのが大きな問題。公共交通は、ある程度継続して乗ってもらわないと成り立たない商売で、たまに乗って「いいよね」と言われてもなかなか大変。最近、羽黒山と加茂水族館は、観光客が乗るのでなかなかいい傾向にはあるが、観光シーズンが終わるとガックっと減る。それをどうすればいいのか。
バスの位置情報で、どこを走っているが情報提供することだが、昔よりは安くなっているが、数百万、数千万の投資をしないとできない。それがあれば、スマホで分かるシステム。入りたいと思っているシステム。バスは交通弱者のもので、高校生は朝、高齢者はなかなか歩きたくないということである。小さい路地まで入って拾えとなっても、冬どうするのか、乗務員のことあって、問題は沢山ある。市としてどういう体系でやっていくのか見せてもらわないと。
現在地に住み続けたいと思うのは、冬の間だけ嫌だと思えるのが実情だと思う。朝雪かきしてへとへとになって。市内はその雪をどうするのかという問題を解決しないと住みたい街にならない。不便だから。そのような問題を解決してから居住者を呼ぶということで、その後歩くか自転車に乗るかという話ではないのかと思う。
- ・条件を整えないと、なかなか住んでくれない。
バス路線についても、あっち行ってこっち行ってというように簡単に変えられない。
バス事業は、いつ頃まで順調だったのか。
- ・昭和41年頃、第一次オイルショックくらいまで。みんな車を持ち出した。

- ・個別案件について少し議論したとき、荘内病院跡地にバスハブを作るということがあったが、バスハブというからには市内のどこどこにハブを作って、どうするのか議論がないと、そのだけという不思議な感じがする。バスハブを配置するという研究をしているのか。
- ・Sモールのバスターミナルを改修した。鶴岡管内のバスの始終点としている。市役所の周辺（シビックコア）と観光物産館をポイントとして考えている。物産館は高速バスが止まる。
- ・その理屈で言えば、ハブもある。

第3節

- ・昔のような、賑わいのある商店街のイメージを変えないといけない。
- ・課題のところ空き家の話が出てくるが、施策の方向のところ、空き家流通に係わるものが載っていないのはなぜなのか。
- ・安心安全ということで、雪の問題をどうやってクリアしていくのか。
- ・空き家流通の話は、どこに入れる予定になるか。
 - ⇒ 空き家の利活用や跡地であったり、危険空き家は環境課が窓口。二つに分かれていることもあり、どのように記載していくか検討中。
 - 両方に記載してもらいたい。
- ・市営住宅の現状に入居者のことが色々書いてあるが、セーフティネットとして暮らしを支えるような場所を活用するとか、支援というものがどこかに入ってくるのかな。市営住宅はそれを担っていると思うが、減少傾向にあるといっても、受け皿になるところが無くなっている状況かもしれない。視点がどこに入るのかな。
 - ⇒ 一つは、市営住宅の長寿命化によって、施設の有効活用。お年寄りや低所得者、母子家庭、障害者などを拾っていきましょう。セーフティネットとして公共施設が担うこと。民間の空き家を使いながら、市営住宅だけでは間に合わない、再整備にかかる費用の補助、期限付きだが市営住宅と同程度の家賃になるような仕組みをしている。

第4節

- ・大きくなってから復旧するのではもっとコストがかかる。事がおきてからではなく、点検して、危険だと思われるところは積極的に公共投資をやって、一定の整備が必要。西日本であれだけの大きな災害が発生している。昔と違って気象状況がずいぶん変わっている。庄内地も災害は少ないと言われるが、積極的に維持管理、整備に投資してもらいたい。
- ・ワイファイの整備はないのでしょうか。外国人には、特に観光面では必須になっている。情報の面

からもそうである。国でも予算を出している。そういう交渉をしていくという方向性の方が魅力ある地域となると思うが。

⇒ （政策企画課）

設置については、商工観光の分野で計画を作っている。地域活性化につながる観光振興ということでフリーワイファイを検討している。インターネットを活用した情報発信については、観光客の利便性を高めるため、様々なウェブサイト、情報サイトを構築しながら整備を図っていくということを専門委員会で検討しているところです。

- ・空き家の話と、歩ける街づくりのことだが、空き家の流通がスムーズにいくと、中心市街地に住む人が来ると思うが、どうして流通がうまくできないか。 世代で違うのかな。

中心市街地には、車が運転できなくなった人たちが住むと歩いて便利だったり、ニーズに合ってくると思う。若い世代は、車になっている。それをバスだとか、公共交通機関でやろうとすると運営する側も困ってしまうことがある。全体的な棲み分けとして地域も棲み分けした方が便利なのかな。免許を無くされた方が郊外に住むのはすごく大変。そういった人が住んだときに便利な街になるようにしたいとすると、そこに住む人はどういう人が住むのと考えたら、住みたいと思う人が空き家を住めるようなことができるといいが、持ち主が売ったり貸したりできないし、買いたい方がお金の足りない人が多くて、買ってリフォームして住むほど資金が無いとか、お金の問題とかを助成金を出して、流通を促すようなことができないか。買ってリノベーションできる人は結構稀なのかなと。賑わいを出すという鶴岡に住んでる免許を返した方が住める、クオレハウスにはいただいている年金の中では住めない人が多いと思う。限られた方だけ。賑わいを取り戻すとすると沢山の人が住めるような、年金額の平均くらいで、沢山の人が住めるような、その人たちに住居が手に入る方法から丁寧に追っていかないと解決していかないのかな。

若い人に中心市街地で歩いて楽しいとか子育てとかいうのは、郊外ではニーズ的には中心市街地では車が難しいのかな。世代を分けて住むということに焦点をあてて助成金などを考えて、具体的なことを提案してあげると住みたいと思う人が出てきて、お惣菜屋さんとか、飲食店とか、歩いてご飯が食べられるとかの環境が無いと住みにくいのかなと思う。クリーニング屋さんとか、普段の生活ができる環境があるから住めるようになると思う。

一般の市民が住めるような住居の流通ができるようなイメージ。

- ・もう少しターゲットを絞るとのこと。
若い人が車1台は持ちながら適正な価格で暮らせるということもやらないと、街の活力が心配になる。
- ・下町的なイメージの商店街があって、その近くに住宅があってというイメージ
いろんな人がいて楽しく過ごせるのかな。これからは、どんどん高齢の方が増えてくる。
- ・まず最初は、公共の助成金が出て、商店街ができて活性化して、子育て世代も住みやすくなってきたのが街の発生だと思う。市が考えるコンパクトシティに即していく中で、そういう人たちに住んでもらう。すぐにできるものではないが、時間をかけてできあがる。高齢者だけではなくて、高齢

者が住んでやさしい街はいろんな人にやさしい街だと思う。

- クオレハウスに住めないような人となると、サーフティーマットの話。
ランドバンクが核となってどう重点的にやるかが、この先中心地にとって必要なこと。
- 高齢者は案外裕福と思う。
- 色んな人が住めるようなシステムを作っていく必要がある。